



# 園だより

第11号

平成31年2月26日

駿河台大学第一幼稚園

園長 田所 恒子

## 幼稚園教育は体験を通して

ひゃっか さきがけ  
百花の魁といわれる梅が咲き始め、ほのかな香りを園庭にただよわせています。太鼓橋の鉄棒に触れた子どもが「あっ！今日は温かい」と驚きの声を上げました。赤広場やお山の公園に出掛け、温かな日差しのもと先生や友達と一緒に、楽しそうに遊ぶ子どもたちの姿が見られます。春の訪れを子どもたちは様々な体験を通して体中で感じています。

さて、先日の展覧会では、寒さの中、ご来園いただきありがとうございました。得意げに作品を説明する子どもの姿や展示作品に成長を感じた、来年を楽しみだなど、嬉しいご感想をたくさんいただきました。毎年、教材や表現方法、展示方法などに新たな取り組みがあり、教員がチャレンジしている姿が見られるという感想もありました。子どもたちが楽しみながら発達にふさわしい体験を通して成長していけるよう、教員は指導力を高め、確かな学びにつながる教育を行わねばなりません。今回の展覧会でも教材研究を行い、協議しながら子どもたちにふさわしい体験を探ってきました。そんな取り組みをご理解いただきとても嬉しくアンケートを拝見いたしました。

一方で、年長児が作った「にこにこわーど」の作品で遊ぶことを、年少・年中児にご遠慮いただいたことに対して、子どもが遊びたがって困ったというご意見がありました。グループの友達と共に考え、時には意見をぶつけ合いながら作り上げてきた年長児の気持ちを考え、作品を展覧会が終わるまで壊さずに展示したいと考えたためです。年少・年中児には、事前に、年長児の大切な作品であることや展覧会後に遊ばせてもらえることも含めて伝えていました。しかし、実際に当日、楽しそうな作品やそれを使って遊ぶ年長児の姿を目にすると納得できない姿もあったようです。この傾向は年少児に多いようでした。年中児は、これまで年長児の遊びに招待を受け楽しかった体験を何回も積んでいるため、「今日は我慢だけでも、招待を楽しみにしよう」と未来を予想し、我慢したり自分の気持ちをコントロールしたりする気持ちが育っているのです。年少児には、まだまだ担任の「言葉」だけでは難しかったと反省しています。幼稚園教育は、言葉や知識だけでなく体験を通して学ぶ教育だと改めて感じました。

年度末を迎え、子どもたちは進学・進級への期待を高めています。3グループに分かれて国領・第二・調和小学校の見学を体験した年長児は、園に帰りそれぞれが楽しかったこと、幼稚園との違いなどを報告し合い、小学校への期待を高めました。また、昇降口での靴の脱ぎ履きを実際に行いながら、立って靴を履く大切さも実感し、基本的な生活習慣を見直す機会ともなりました。「年長さんみたい」と言われるととても嬉しそうな年中児は、これから年長児に園庭片付けやお休み調べなどの仕事を教えてもらいながら引継ぎを行い、年長児になる自覚や喜びを高めていきます。年少児は、慣らし保育で幼稚園に来た来年度入園する子どもたちと遊ぶ体験を通して、自分よりも小さな子どもが幼稚園に来ることや、自分も大きくなり年中組になることを知っていきます。

少し早めではありますが、保護者の皆様には、本園の教育に様々なご理解・ご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。残り少なくなった現学級での日々が楽しく、より豊かな体験となるよう、教職員一同努力してまいります。よろしく願いいたします。



遊び込んできた年長児のドッジボール。ボールの投げ方や逃げ方も上手になってきました。



「にこにこわーど」のグループ作品について、年長児はそれぞれががんばったところや注意して使ってほしい点を伝え合いました。



年中・年少児は、展覧会后、年長児に「にこにこわーど」へ招待され楽しみました。



小学校見学。4月には最上級生となり新1年生をお世話してくれる5年生に校内を案内してもらいました。



慣らし保育。年少児は、プレ保育で小さな子どもたちに接する体験を積んでいるためでしょうか。とても上手に遊んでいました。